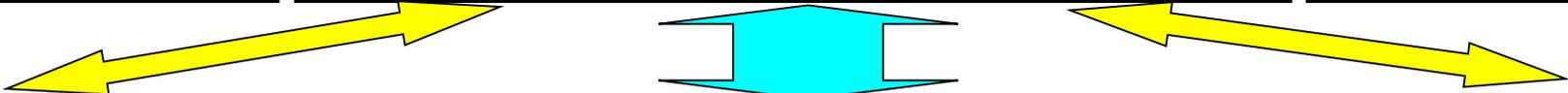


平成30年度 学力向上アクションプラン

B票

尼崎市立成徳小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○全国調査結果からの課題 (1)各教科(全国平均をやや下回っている) ・国語…漢字、目的や意図に応じた答え方など 算数…図形の位置関係、数学的な考え方など (2)質問紙調査 「授業が分かる」と答える児童の割合は、前年度よりやや増加し76%である。しかし、「家庭学習の時間30分以上」と答える児童の割合は減少し、78%であった。このことからさらに家庭との連携を進め、学習規律を確立し、家庭学習の習慣化、定着化を図ることが課題である。</p>	<p>・奈良教育大学附属小学校の先生を講師として招聘し、協働的な学びの創造を推進する【(1)講師招聘支援を活用】 ・授業改善アドバイザーの訪問指導を受け、教員の授業改善を図る。</p>	<p>・学習規律の確立、家庭学習の習慣化、定着を図り、学習意欲を高める。 ・低学年や中学年で同室複数指導を行う中で、つまずきの早期解消、即時評価に努める【(2)授業補助支援を活用】 ・毎週1回の放課後学習や夏季休業中におけるサマースクール等を実施する中で、基礎学力を身につけさせる。【(3)放課後学習支援を活用】 ・放課後学習等で使うプリントを」作成し、学力の定着を図る【(4)学力定着支援を活用】 ・朝の読書の時間を確保し、落ち着いた雰囲気の中で読書をする。 ・午後の授業の前に計算タイムを設け、計算力を高める。</p>	<p>・若手教師の会を組織し、時期に応じた研修会・授業実践を行い、若手教員の指導力・授業力の向上を図る。 ・ICT機器を活用した授業を進める。</p>	<p>○全国学力学習状況調査 (1)学力調査 ・平均正答率(全国平均±0ポイント以上) (2)質問紙調査 ・家庭学習の時間30分以上(90%以上) ○児童アンケート ・勉強はわかる(80%以上) ○保護者アンケート ・宿題・学習準備(90%以上)</p>



校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>・大庄中校区統一の「家庭学習のめやす」を作成し、9年間を通した学習習慣の確立を図る。 ・小学校から中学校へ円滑な接続を図るために本校児童と、大庄中学校生徒会との交流を図る。また大庄中学校のクラブの見学を行う。 ・小、中学校職員による教科指導を含めた合同研修会を行う。</p>	<p>(1)講師招聘支援 (2)授業補助支援 (3)放課後等学習支援 (4)学力定着支援</p>	<p>・協働的な学びの創造(奈良教育大学附属小学校 教諭 井上龍一氏 6回) ・低、中学年の協働的な学習において担任と嘱託員による同室複数指導を効果的に行う ・放課後学習(1～6年) 25回(1h×25週) ・夏季休業期間(1～6年) 3回(3h) ・学習支援に係る用紙・インク代 ・自主学習ノートの作成</p>	<p>・開かれた参観日で、成徳小学校内の自然について「フィールドワーク」を地域に広げて行う。 ・生活アンケートを継続して行い、家庭での生活・学習の改善に努める。 ・人権週間中に、道徳副読本を家庭で読んでもらう取り組みを行う。 ・学力調査結果を公表する。 ・学校行事の様子や学校便り、学力向上アクションプラン等を学校ホームページに掲載することで、学校の取組を家庭や地域に広く知らせる。 ・自主学習の取り組みを推進する。</p>